

令和6年1月16日

世田谷区立若林小学校
校長 滝上 俊恵 様

令和5年度 学校関係者評価委員会のご報告

世田谷区立若林小学校
学校関係者評価委員会
委員長 鈴木貴美子

学校関係者評価委員会では、児童、保護者、地域に行ったアンケート結果より、分析・評価を行い、改善方策を検討いたしました。次年度も、子どもたち・保護者・教職員の皆さま・地域の皆さまに愛される若林小学校であることを願い、下記のとおりご報告申し上げます。

記

<令和5年度学校関係者評価委員会>

委員長 鈴木 貴美子
委員 岡田 貴司子
委員 井手口 理恵
委員 月村 雅一
委員 下山 達矢
委員 根岸 康子
委員 岸田 諒

<アンケート調査の概要>

1. アンケート調査実施日

児童 令和5年10月17日（火） ～10月31日（火）の間に実施
保護者 令和5年10月17日（火） ～10月31日（火）の間に実施
地域 令和5年10月17日（火）配布～10月27日（金）提出締め切り

2. 実施・回収の方法

児童・保護者 電子データにて実施・回収
地域 封筒に入れて配布、郵送にて回収

3. アンケート回収結果

紙面でのアンケートでは、9割以上の回収率でしたが、WEB 回答になってから半数ほどの回答率となっています。アンケートをより多くの方が回答することが、評価をより正しく、より良くし、子どもたちのより良い学校生活に寄与することができます。回収率の改善に向け、保護者への声掛けなどの工夫をお願いします。

◆調査対象者		◆回収数(回収率)
児童（5年生・6年生）	161名	151名（94%）
保護者（全学年：児童数）	554名	283名（51%）
地域	54名	33名（61%）

若林小学校の成果と課題

1. 地域とともに児童を育てる教育について

【学校・保護者・地域との連携】

「地域の人や施設を教育活動に活かしている」は保護者からは「とても思う」「思う」が74.9%、昨年度より10.7ポイント上がった。「わからない」が16.3%と6.2ポイント減った。

地域の評価は「とても思う」「思う」が100%で、昨年度より25.8ポイント上がり、「わからない」が昨年度22.9%あったが、ゼロになった。コロナが下火になり、多少の制限はあるものの行事や活動ができるようになったことがデータに反映しているのではないかとと思われる。

保護者への設問「本校は地域の活動に協力的である」は「とても思う」「思う」が77.7%、昨年度の70.9%より6.8ポイント上がった。「わからない」は昨年度は24.2%あったが14.8%と9.4ポイント減った。

学校の教職員は、コロナは下火になったが、児童の増加、異常気象、そしてインフルエンザなどの感染症が季節外れに流行したりと、新たな要因の発生もかさなり、教育活動を見直しながら進めている状況。そのようななか地域の活動にも大変協力的に対応されていた。盆踊り大会、地域のまつり、ラジオ体操、敬老会など若林小学校、若小PTA、地域の皆さまの支援のおかげで、無事開催することができたことがアンケート結果に現れていると思われる。

地域への設問「学校協議会や合同学校協議会が役割を果たしている」は「とても思う」「思う」が75.7%、昨年度よりさらに少し理解が進んだと思われる。「わからない」は15.2%と昨年度より7.7ポイント少なくなっている。

「学校運営委員会は活動を周知し、役割を果たしている」は「とても思う」「思う」が75.7%、昨年度より10ポイント上がった。「わからない」は18.2%、昨年度は31.4%と13.2ポイント減った。

【学校の広報活動・情報提供】

地域への設問「学校のお知らせなどで学校の様子がよくわかる」は「とても思う」「思う」が100%となり、昨年より以上の高い評価である。

「学校公開や道徳授業地区公開講座」などで学校の様子がよくわかる」は「とても思う」「思う」が81.8%で、昨年度65.8%だったので16ポイント上がった。

「学校のホームページに学校のお知らせや生活の様子がわかる情報が掲載されている」は75.8%と昨年が80%であり、ほぼ同様に高評価である。

「学び舎の活動について情報が提供されている」は「とても思う」「思う」が75.8%、昨年度が74.3%とまずまずの高い評価を得ている。「わからない」が12.1%で昨年度より0.7ポイントやや増えた。

2. 未来を担う児童を育てる教育について

【学習指導】

児童の「とても思う」「思う」を合わせた肯定的評価は、昨年より若干下がったが、9割を超えている項目もあり、評価は高く、「とても思う」との回答も多い。保護者については、昨年より肯定的評価が増えた項目が多く、「黒板の書き方やプリントなどを工夫している」の項目の肯定的評価が昨年は6割程だったが、今年は7割に近づいており、学校公開などで、直接授業を見る機会が増えたことも一因であろう。全体的にも、昨年より「わからない」との回答が減り、「肯定的評価」が増えたことは、やはり学校生活が通常に戻りつつあり、保護者が学校に足を運び、学校生活を見ることができていることが大きいのであろう。また、教職員のコロナ禍より続けてきた授業の工夫が評価されたのであろう。「映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている」との項目も昨年より肯定的評価が増えており、タブレットの活用も念頭におき、引き続き工夫ある授業の継続をお願いしたい。

【生活指導】

地域からの評価は昨年より高くなった。保護者については、「教員が指導した学校での過ごし方やルールについて子どもが理解している」との項目に対しては、昨年より肯定的評価が1割以上減少したものの8割近くある。児童においては、どの項目も肯定的評価が8割以上あり、先生方が注意深く児童に目を配り、指導をされている結果であると思われる。ただ、「思わない」「あまり思わない」を合わせた否定的評価をしている児童

が若干増えていることから引き続き一人ひとりに対しての細やかな対応をお願いしたい。

【学校行事】

ここ数年続いてきたさまざまな制限が大きく緩和、撤廃され、以前の行事の姿が復活してきている。保護者においては各項目とも昨年までと同様、高評価である。「子どもにとって達成感がある」「子どもの意欲を大切にしている」については昨年より肯定的評価が上がっている。地域においても、「わからない」の回答は一定数あるが、コロナ禍以前のように行事が行われていると認識され、高い肯定的評価が続いている。大人は安堵感をもち、今後への期待も込めて受け止めているといえる。

一方で児童においては、数値的には高評価といえるが各項目とも肯定的評価が昨年より若干下回った。5年、6年児童間の評価傾向にも違いがみられる。全校行事、学年別行事の内容、また、発達段階における問題を客観的にとらえる力の違いなど、さまざまな角度から原因を掘り下げてみてほしい。

「先生は、児童の意欲を大切にしている」の肯定的評価も一昨年、昨年、と連続して減少傾向にある。学校生活における行事は、非認知能力の育成など教科学習とは異なる大きな役割があり、引き続き児童一人ひとりの思いや願いに寄り添ったていねいな対応をお願いしたい。

【キャリア教育】

児童においては肯定的評価がやや下がっている。「自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある」の項目については、実際に該当する授業がそれと受け止められていない場合があり、アンケートを取る際に、丁寧に説明するなどの対応で結果は違ってくると思われる。保護者の同様の項目の肯定的評価は昨年より若干上回ったものの、5割程度に留まっている。ただし「わからない」の回答についてはやや減ってきており、学校公開などを通してキャリア教育への理解が少しずつ進んでいるといえる。「キャリアパスポート」には、キャリア教育のねらいや児童の成長が記録として残されており、保護者の理解を促すためにも活用できるのではないかと。

児童の「区立中学校に関する情報が提供されている」の項目は肯定的評価が昨年より増えているが、「わからない」も2割を超えている。ここでいう「情報」とは児童にとってどんな情報なのか、児童が知りたい具体的な内容を掘り下げてみてほしい。

【全般について】

「家庭で宿題やeラーニングでの学習をしている」との項目に対し、児童の肯定的評価は昨年を下回った。同様に、保護者の「家庭で自主的に学習をしている」の項目についても肯定的評価は昨年を下回った。一方で「塾で学習している」の項目は肯定的評価が昨年より若干増えている。家庭での学習状況については、各家庭による違いが大きい

と思われる。児童はもとより保護者に対しても学習環境を整えるための支援を模索してほしい。

「学び舎の中学」との連携や交流については、児童、保護者ともに肯定的評価が若干増えている。「わからない」の回答が昨年よりは減ったものの、他の項目と比べると未だ多い。今後も、保護者や児童が学び舎の中学校の存在が身近に感じられるような情報の「見える化」に努めてほしい。

保護者の「体力の向上や健康な生活に取り組んでいる」の項目については肯定的評価が昨年同様7割以上と高いが、否定的評価も増えていた。コロナ禍が終息しても今年は猛暑が続き、外での活動が大きく制限されたことも影響していると思われる。

3. 信頼と誇りのもてる学校づくりについて

【学校運営について】

保護者、地域からのアンケートの回答から、「学校運営」について述べていく。
まず、保護者からの回答で「本校は、保護者に学校の重点目標を伝えている」は「とても思う」、「思う」の肯定的な評価が74.2%で前年度と比べ、11.2ポイント下げている。年度当初の全体保護者会や学校要覧などで学校から伝えられているが、保護者に十分に伝わっていないことが分かる。重点目標がどのように授業に反映されているかを、様々な機会を設けて発信してほしい。

次に、「校長をはじめ教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる」の肯定的評価が76%で前年度と比べ、17.3ポイント下げている。今年度は、10月に学芸会、11月に運動会と大きな行事を実施してきているが、行事においては、先生方の連携のとれた動きを見られていた。子どもを預ける保護者としては、先生方が協力して教育活動に取り組むことを切に望んでいるので、引き続き、学校長のもと、一致団結した指導をお願いしたい。

また、地域からの回答で「学校の重点目標が明確である」の肯定的評価が100%となっていて高い数値となっている。

最後に、「地域の意見に対して、学校は丁寧の説明・対応している」では、肯定的な評価が93.9%で、昨年度より19.7ポイント上がっている。今年度は、新型コロナが5類に下げられ、行事が再開され、7月には若林納涼盆踊り大会、9月には避難所運営訓練が行われた。今後、地域と学校との連携が活発になっていくので、引き続き丁寧な対応をお願いしたい。

【教職員について】

児童のアンケートの回答では、「先生達は、丁寧に指導してくれる。」で肯定的な評価が82.2%で昨年度よりも12.7ポイント下げているが、8割を超える高い数値となっている。また、「先生たちに相談できる。」は63.6%で昨年度よりも6.1ポイント下げている。

先生方は子どもたちのために一生懸命に指導にあたっていると思われる。ただ、アンケートに回答した対象学年の5、6年生は思春期を迎え、自分の思いを通したい気持ちと周囲と折り合いを図ることが求められる難しい時期に入っている。そのため、必ずしも肯定的な回答結果が出るものではない。また、5、6年生の子どもたちは社会に向けて経験を重ね、成長している途上の時期である。今回の回答結果に一喜一憂せず、学校と保護者とで連携を図り、子どもたちの成長を見守ることが大切だと考える。また、保護者からのアンケートの回答で「本校は、丁寧に指導している。」は肯定的な評価が79.5%で昨年度よりも8.9ポイント下げているが8割近い高い数値となり、「本校は、子どものことを相談しやすい。」は73.9%で昨年度よりも11.9ポイント下げているが7割を超える高い数値となっている。親も子も、学校への高い信頼を表している。

【学校からの情報提供について】

本校では、保護者連絡チャンネル「すぐーる」や学校ホームページ、学校便り等で情報提供している。保護者のアンケートの回答の「本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している。」では肯定的な評価が86.2%で前年度と比べると6.8ポイント落としているが、8割を超える高い数値となっている。今年度は、ペーパーレス化や学校現場の働き方改革などが進み、以前ほど、お便りの枚数は減ってきている。(現に、学校便りと学年便りは1枚にまとめられ配布されている)ただし、学校ホームページやすぐーるなどで情報提供されており、保護者は必要な情報を得ている。学校は社会の変化に柔軟に対応しつつ、必要な情報は発信している。

一方、「『学び舎』の区立中学校について情報が提供されている」は、肯定的な評価が37.8%で低いが、昨年度よりも3.7ポイント上げている。来年度、中学校への進学を控えている6年生の保護者では全校平均よりも19.8ポイント上回る。一方で、その他の学年では評価にばらつきが見られる。保護者の関心の高さが評価に直結している質問項目である。

「本校は、学校公開や保護者会などで、児童の様子が分かる。」は、肯定的な評価が90.8%で前年度より0.7ポイント上回っている。今年度は、参観できる学校行事が増えていることが大きな要因だと思われる。

「本校はホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している。」は、肯定的な評価が71.8%で前年度より21ポイント下回っている。各学年、月1回は子供たちの活動の様子をホームページに掲載するなど意識すれば、改善されるのではないだろうか。

【家庭と学校の連携について】

保護者のアンケート回答から、「家庭と学校の連携について」を述べていく。

「私は、学校公開に進んで参加している」については肯定的な評価が84.5%で前年度

より5.3ポイント下回っている。これまで同様、保護者の声をよく聞き、学校生活への関心が高まるように、学校に足を運びやすい環境づくりが必要である。

「私は、地域の活動などに進んで協力している」については肯定的な評価が50.1%で前年度より6.9ポイント下回っている。学校での学校支援地域本部の設置等、地域、家庭、学校の連携の推進が国の施策として進められている。学校が地域、家庭に進んで働きかけ、「地域と共に子どもを育てる教育」が進むことを期待したい。

「私は、今年度の学校重点目標を理解している」は肯定的な評価が48.8%で前年度より6.2ポイント落としている。「保護者に学校の重点目標を伝えている」という項目の肯定的評価が7割を超えているのを見ると、5割を下回っている。今年度は参観できる学校行事が増えているので、折に触れ学校の重点目標を伝えていくとよいと思われる。

【学校行事について】

地域のアンケート結果をみると、「事前の準備や当日の案内などで地域への配慮がある」では肯定的な評価が93.9%に達している。今年度は学芸会や運動会などの学校行事に地域の方への案内が再開されたことや毎月、学校便りが届けられること等、学校側の配慮が大きな要因だと思われる。

4.教育環境の整備について

【保護者の評価】

・「本校は安全な学校づくりを進めている」

⇒肯定的評価79.9%

・「本校は避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている」

⇒肯定的評価88.0%

・「本校は自然災害時の対応を子どもや保護者に提供している」

⇒肯定的評価78.8%

昨年度と比べると肯定的評価は下がったものの「本校は安全な学校づくりを進めている」と「本校は自然災害時の対応を子どもや保護者に提供している」の肯定的評価は8割ちかくあり、また、「本校は避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている」の評価に関しても88.0と高い数値でこの学校の安全性を示すには十分な数値であると考えられる。

【地域の評価】

「学校は、安心・安全な学校づくりを進めている」

⇒肯定的評価100%

「学校は、安全性を高めようと地域と協力している」

⇒肯定的評価97.0%

コロナが明け様々な行事が再開し地域の方々も学校を訪れる機会が増えてきたなかでのこの評価は学校の安全性を明確に表しており先生方の努力がうかがえる。

5. 学校生活全般について

【保護者の評価】

- 「本校の学校生活は、子どもにとって楽しい」⇨肯定的評価87.3%
- 「本校の教育活動に満足している」⇨肯定的評価77.3%
- ・「本校の学校生活は、子どもにとって楽しい」は保護者から高評価を得ているも、昨年度より5.7ポイント下がっている。「本校の教育活動に満足している」については6.8ポイント下がっている。
- ・学校生活全般に対する評価に少し低下がみられるが、教職員が様々な工夫を持ちより育てていこうとする意識や姿勢が、子どもたちをとおして保護者から評価を得ていると感じる。様々なニーズに合った教育活動を今後も継続していければ、肯定的な評価につながるとみている。

【児童の評価】

- 「学校生活は楽しい」⇨80.1%
- 「学校が好き」⇨74.1%
- ・「学校生活は楽しい」と思う児童は、昨年度の90.0%から80.1%と9.9ポイント下がっている。「学校が好き」についても81.3%から74.1%と7.2ポイント下がっている。
- ・「楽しい」「好き」について、「あまり思わない」「思わない」「わからない」との評価が昨年度より少し増えた。
- ・学校では丁寧な子どもの見取りや各種アンケートをもとに聞き取りを行うなど、対応してくださり感謝している。引き続き、細やかな対応をお願いしたい。
- ・子どもの気持ちには、そのつど変化があるものとみて、今後も評価の推移を見守っていくことが大事である。

6. 重点目標について

【学びの基礎・基本を身に付け、主体的に学習する児童の育成】

保護者の「子どもは、読んだ文章の内容を理解している。」を80%以上にする。

児童の「わたしは、読んだ文章の内容がわかる。」を80%以上、「わたしはきまりを守りながら、タブレット端末を学習に役立てている。」を90%以上にする。

読んだ文章の理解について、保護者の「とても思う」「思う」を合わせた肯定的評価は49.8%と昨年より低くなり指標には届かなかった。低学年の保護者に「あまり思わない」「思わない」という回答が多い傾向があり、指標に近づくよう一層の対応をお願いしたい。児童については肯定的評価が78.8%とほぼ指標に近い結果となっている。さら

に、「とても思う」との回答が増えており、引き続きご指導をお願いしたい。

「わたしはきまりを守りながら、タブレット端末を学習に役立てている。」とのアンケート結果については、「とても思う」36%、「思う」44%を合わせた肯定的評価は80%で、指標には届かなかったが、多くの児童がタブレット端末を学習に役立てていることがわかる。

ことばの力を育成する取り組みは積み重ねていくことで必ず実を結ぶと思われるので、引き続き、「読み解く力、書く力」を養い育ててくださるようお願いしたい。

【規範意識を身に付け、自分も周りの人も大切にする児童の育成】

保護者の「子どもたちは、あいさつをしている。」を80%以上にする。

児童の「わたしは、相手の顔を見てあいさつをしている。」を80%以上、

「わたしはくつを正しく履き、正しく入れている。」を90%以上にする。

あいさつについて、保護者の肯定的評価は81.6%と昨年と同様高い評価であり、指標以上となっている。児童については肯定的評価は76.8%で若干ではあるが、指標には届かなかった。

「わたしはくつを正しく履き、正しく入れている」とのアンケート結果については「とても思う」67%、「思う」21%を合わせた肯定的評価は88%でこちらもわずかではあるが、指標に届かなかった。しかし、90%以上という高い数値を掲げており、「とても思う」と回答した児童が多く、先生方の指導が行き届いている結果だと思われる。

【体を動かすことが好きで、目標に向かってねばり強く取り組む児童の育成】

保護者の「学校は健康の増進や体力の向上に取り組んでいる。」を80%以上にする。

児童の「わたしは長縄跳びや短縄跳びなどの体力づくりに、目標をもって取り組んでいる。」を80%以上にする。

保護者の肯定的評価は67.1%と昨年より低くなってしまったが、猛暑の影響から熱中症の危険を回避するため、校庭での体育授業が制限されたことなどの影響があるのだろう。児童については、昨年より若干評価が下がり77.5%で指標にわずかに届かなかったが、これは短縄跳び、長縄跳びについて、これからの時期に活動することも影響したのだろう。

体を動かすことが好きな子ども、スポーツに興味を持ち目標に向かって一生懸命に取り組む子どもに育つよう、引き続き様々な工夫をお願いしたい。

自己評価の方法・結果等について

自己評価の方法や内容については適正になされている。

ほとんどの項目が高評価であることから、教職員がコロナ禍を経て、通常の教育活動に戻りつつあるなかで、さらに質の高い教育活動を行っていることがわかる。

I.重点目標である「読んだ文章の理解」については「とても思う」「思う」との回答が昨年より増えている。「あいさつの取組」、「体育学習の取組」については、「あまり思わない」との回答も若干あるが、「とても思う」との回答も多くなっている。

II.地域との連携・協働による教育の評価のなかで、「地域運営学校」、「学校協議会」の項目について、昨年より大幅に「とても思う」との回答が増え、再び地域との連携、協働という体制が実現されつつあると感じる。

III.「世田谷9年教育」で実現する質の高い教育の推進の評価のなかでも、ほとんどの項目で、「とても思う」「思う」を合わせた肯定的評価は昨年と同様高評価であり、「とても思う」との回答がとても増えている。「特別活動」、「学校行事」に関し、児童の自主的な態度の育成、自主的な参加に対する取り組みについては特に顕著である。また、「キャリア・未来デザイン教育」、「特色ある教育」についても、同様であり、今年度、特別活動や行事が充実してきたことが、大きく関係しているであろう。

IV.信頼と誇りの持てる学校づくり、V.安全安心と学びを充実する教育環境の整備の評価のなかでは、各項目とも「とても思う」「思う」を合わせた肯定的評価は昨年と同様に高く、「とても思う」との回答が昨年より大幅に増えている項目が多い。

以上

次年度に向けて

本来の学校生活が取り戻せてきた今年度において、本校の教育目標『「至誠而不動者未之有也」誠を尽くす若林の子ども』のもと重点目標における様々な取り組みによって、一人ひとりの個性を輝かせ、創立152年の伝統と校風を継承する児童が育成されつつあります。

近年の異常気象による屋外での活動の抑制や、児童数の増加に伴い、活動内容の変更や行事の開催方法などさまざまな工夫を行い、子どもたちの活動を試行錯誤しながら実

現させていることがよく理解できました。

次年度以降も行事の開催方法など試行錯誤が続くものと考えられますが、知・徳・体の調和ある教育を実践していただき、子どもたちとともに、学校、保護者、地域が一丸となって、誰もが誇りに思える若林小学校を創っていきましょう。